

須木尊塾

H29.3.17(金)

まだまだ寒い日が続く今日この頃です。梅や桃の枝は、あたり一面にピンクや黄色の装いを始めています。さあ、そろそろ桜の披露ですわね。今年も開校を喜びます。

先日、第七十回の卒業式が終了しました。七十回の今年の卒業生は九名でした。この日のために多くのご来賓や祝詞など、温かく見守っていただき、すばらしい式が挙行できました。心より感謝申し上げます。

保護者の皆様、愛情をいっしょに育て、これから別々の道に進んでいく子どもたちを、未だく応援をお願いしたいと願っております。本当にありがとうございました。



体験や経験に感謝パート2

前回紹介した三校合同サマソングの学校の生徒会活動や情報交換して、各校の活動の活性化を図る目的で実施しました。当日は水戸市、東市、須木中の生徒会役員が来賓より、各校の取組や意見交換を行いながら、交流を深めました。

二月二十八日(火)に参観日を行い、多数の保護者の出席をいただきました。当日は、ハッシー、林、そのまのまの金校、タノエも見ていただきました。テノエの速い曲で驚かされた、不安定な子も、元気に踊りました。お披露目できるとあり、たいです。



三月十一日(土)にすぎらんどにある「アーク」でストリートピアノで「ハモニ」というモニーがありました。20数か所に寄贈されているピアノを、ハモニで東日本大震災の被害にあった方々への鎮魂の祈りを届けました。一月から美術の時間に入江先生の指導のもと、全校生徒でペイントしました。須木の町が見事に描かれています。当日は全校でこの歌を合唱しました。とても良い体験となりました。お声をかけていただき、感謝します。

鎮魂の祈り



受賞作品紹介

今年度春日文芸賞の受賞作品紹介。学園詩壇賞に一年の京保里南さんが選ばれました。本校では、詩や短歌、俳句、作文など、春日新聞に投稿しています。おかげで、作品を掲載していただく機会が多く、感謝しています。今回は、掲載された記事の裏面に印刷してありますので、是非ご覧ください。来年度も引き続き、この取組を行っていきますので、楽しみにしてください。

卒業生より入試を終えて

生徒会長の時代代表として二名の三年生に発表してもらいました。



僕は料理人になるという夢があるので、以前から林西高の調理科に入学したいと考えていました。五教科の中で、数学、理、英が難しく、時間がかかりすぎて、勉強しておけば良かったと思いました。面接は練習を繰り返して緊張感がありません。自己PRや志望理由を卒業後何をするか質問されました。入試を終えて僕が頑張りに言えることは、皆さんもいっしょに入試を受ける日に来るまでの時までには、しっかり準備をしておきたいということです。

私は、林西峰高校の推薦入試を受けました。英語、数学、作文と面接でした。作文は昼休みや放課後何時間も練習した。作文だったので、落着いて取り組むことができました。毎日練習して当日はできる問題から解いていくように心がけました。入試を終えて、二ヶ月、先生方や家族が応援し、支えてくれたおかげで、強く感じました。これから受験生になる一二年生も、たくさんの方々の支えに感謝し、一日一日大切に過ごして、いってほしいと思います。

最後に「卒業生」全員合格しました。おめでとう



小林市須木の自然に刺激を受け、詩を制作している京保さん

京保 里南さん (13)

小林市・須木中1年

自宅を一步出れば、水田が広がり、秋の夜にはシカの鳴き声が響き渡る。小林市須木で自然に囲まれて暮らす中で感じたことを素直に詩で表現している。小学5年生から詩に親しむようになり、現在は朝自習の20分間で書き上げる。好きな作家の間で書き上げる。好きな作家の作っていききたい」と話している。

須木の自然を素直に

【自選詩】
朝
「いつてきます」を母に言つて
くつをはいて家を出ると
すんだ空気が私を包み込む

昨日の雨がうそのように
日の光で花や葉がキラキラと
輝いていた

祖母が「いつてらっしゃい」と
笑顔で手を振ってくれ
鳥たちが明るい声で鳴いている

大きく息を吸って目を閉じる
頭がすっきりして
なんだか元気が出た

ふと我に返る
もうすぐバスが来る時間だ
風に背中を押されるように
私はかけ出した

選者所感 中馬 宣明

第六代の受賞者として、意欲的で熱心な投稿者の中から小林市・須木中学校の京保里南さんを選んだ。中学生としては、昨年に引き続き一人目の受賞となった。

昨年9月17日付の紙面に初登場した作品「朝」は、微妙に変化する朝の情景を爽やかに描写したものであったが、若さあふれる表現力と、綿密な構成力に魅力を感じた。その他の作品「雨」(11月5日)も、雨に寄せる優しい思いが、そつと伝わってくる美しい作品であった。さらに、「霧」(1月7日)は、朝霧を素材に自らの素直な思いを表現し、神秘的な世界を作り上げていた。〈冷たい風が吹く朝は／真白な霧が／山脈を包む／人間から

綿密な構成力が魅力

山を守っているように／中からかすかに／鹿の鳴き声した／(中略)／何もかも／全てを包む朝霧／私も包まれてみたい／私も守りたい。自然の中に平易な題材を見出し、自在に言葉を選びながら作品化するこの感性は実に見事である。

惜しくも紙面を飾ることはできなかったが、「文化祭」「クリスマス」など、学校生活を通して揺れ動く心情を巧みに捉えたものが多かった。

京保さんの作品の特徴は、日常の生活や自然をモチーフにしたものが多くところにある。ふるさとの風景や人への優しい思いやりの心が発想の基盤になっている。作品の質の高さはもちろんのこと、中学校を通しての継続的な投稿を評価したい。積極的な気持ちを忘れることなく今後も書き続けてほしい。